

1. 活動の成果

- ① 25年度事業として、神戸市の「市内中小企業者にかかる電力診断事業」に応募し、受託しました。この事業は、緊急雇用事業の基金を利用したもので、1/2以上の経費を2名の新規採用者の人件費とする等の条件がつけられていますが、計測装置を使用して、実際の電力使用状況をデータ化して見える化するなど新しい特徴があります。困難な点も多くありましたが、36回に及ぶ診断員会議や詳細な報告書作成、計測機器の調整などを通して、ワット神戸の省エネ事業としては、過去最高の25件の診断を実施し多くの成果を得ることができました。



写真左：診断結果の説明



写真右：計測装置取り付け

- ② エネルギーネットワーク事業は、各チームごとに活動を行いました。

イ. 太陽光発電推進チーム

夢前発電所の定期点検状況の検討、神戸市の補助金を利用した遠隔監視とモジュールの洗浄状況による発電比較の実証実験等により多くのデータを得ることができました。

ロ. 太陽光発電応用チーム

e-potの販売に注力し、防災展での展示やレンタル方式を取り入れることを決めました。販売数は4台ですが、息の長い商品として販売努力を継続します。

ハ. 小型風力発電チーム



1kW以下のシステムは、FIT（全量買取制度）になじまないことから、普及啓発用としての販売機会を探すと共に、より需要の大きい小型水力発電の可能性に挑戦し、オーハツ（株）の西播磨県民局でのプレゼンを支援しました。

（左）プレゼンする木村氏

ニ. 色素増感型太陽電池研究会

今年度は活動ができませんでした。

ホ. エネルギー診断チーム

1-①にあるように神戸市の事業に注力し、省エネセミナーへの協力やイベントでの普及活動を行いました。

全体として、2008年から5年間取り組んだ広域連携事業を引き継いで活動してきましたが、各チームごとに既定の事業化テーマ中心の取り組みとなったため、新しい視点やテーマに挑戦する機会が少なくなってきたことが課題となります。

③普及啓発活動は「ひょうごエコフェスタ」に出展しました。



体験型として、会外から柳生氏に参加いただき、人カバイクと太陽光との出力比較に取り組みました。
これからも出展目的を明確にした工夫を行っていきます。
一方、有料となった「国際フロンティアメッセ」「びわ湖環境ビジネスメッセ」には出展を見送りました。
また、昨年に続きアースパル神戸と協力して、「エコチャレンジゼミ」の一環として神戸高専、淡路のメガソーラー見学を行いました。

④会外からの相談や講師派遣にも積極的に対応しました。

兵庫県中小企業家同友会LINCの活動として、「太陽光発電ビジネス」をテーマに、2回目のセミナーを開催し、経営者を中心に30名の参加がありました。
また、太陽光発電や省エネなど10件を超える相談があり、事業につながる可能性も増えています。
うちエコ診断では、25年度も3人の診断員が、ひょうご環境創造協会の依頼で活動しています。
また、津田会長が委員として参加した神戸市の環境未来都市推進をめざす取り組みは、環境未来都市として採択され、26年度の具体的な活動に継続、発展されることとなりました。

⑤夢前発電所の取り組み

- イ、(有)ワット神戸から委託を受け、夢前発電所のメンテナンスを開始しました。
月1回のペースで、岡田アドバイザを中心にデータ収集と清掃を行い、モジュールの状況、パワコン周辺の温度状況について、破損や水浸、パワコンごとの発電量差異等解決すべき問題を提起しました。
- ロ、7月には地元の方々に説明会を実施することができましたが、今後も機会をみて、実施していきます。
- ハ、発電を開始した平成25年4月以降、12ヶ月間の発電量は51,617kWh、売電金額は2,167,914円でした。
(47kWシステムとして1098時間の稼働となります)



地元での説明会（25年7月）

⑥分野別の活動件数は次の通りです。小委員会や打ち合わせは含んでいませんが、それでも延べ137回の活動が行われ、会員&アドバイザーが約600名、会外の方もイベントの来訪を別にして約80名が参加されています。一覧表にすると下記の通りです。

種類	回数計	参加計	外部参加計
理事会、三役会等	10	63	2
アドバイザーグループ	24	98	2
太陽光発電推進チーム	25	94	25
太陽光応用チーム	5	24	0
小型風力発電チーム	2	6	2
診断員会議（神戸市事業）	36	213	0
太陽光発電所推進チーム	5	45	3
事務局対応	13	18	19
普及啓発（イベント・セミナー）	3	10	α
夢前発電所関係	14	25	20
総計	137	596	73+α

⑦組織と財政の強化

25年度も会員増強と自主財源確保に取り組みました。

会員数は新しく正会員1名、アドバイザー1名を迎え、正会員19名、賛助会員8名、アドバイザー6名となりましたが、まだまだマンパワーは不足しています。

財政面では、24年度から事務所費、人件費をゼロとして会費と寄付金で運営することを基本としました。

25年度は、神戸市の電力診断事業を受託したため急遽オカダビルを低家賃でお借りしています。

結果、黒字幅は縮小しましたが、計測装置を用いた電力診断能力を高めることができました。

認定NPO法人を目指し、1口3,000円を100口以上集める努力を行い、過去最高の37名の方から228,000円の寄付金をいただきました。

目標には届いていませんが、確かな前進となっています。